

千葉県におけるRSウイルス感染症流行予測とパリビズマブ投与について 2022年～2023年シーズン（第1報）

日本小児科学会は、2019年4月に、最新のエビデンスと、現在の医療状況を反映したコンセンサスに基づく、「日本におけるパリビズマブの使用に関するコンセンサスガイドライン」を公表した。ガイドラインと千葉県内のRSウイルス感染症流行状況を考慮して、千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループは、2022年シーズンの流行状況を勘案し、パリビズマブ投与について以下を提案する。

1. 2022年1月以降のRSウイルス感染症状況は、一部の都道府県で患者報告が認められるものの、全国的に流行は認められていない。（<https://www.small-baby.jp/rsvirus/trend.html>）。
2. 千葉県内においても、2022年1月以降患者数の増加は認められていないが、2021年シーズンにおいては、2021年5月中旬から患者数が増加し、6月～7月に大きな流行が認められた。（<https://www.pref.chiba.lg.jp/eiken/c-idsc/documents/c202128.pdf>）
3. 2022年シーズンにおいても、昨年と同じ時期に流行が認められることを想定し、パリビズマブ投与の準備をしておく必要がある。
4. 千葉県内において、パリビズマブ投与は、適応病名に関わらず、1シーズンあたり7回を目安に投与することを提案する。ただし、感染症発生動向調査、患者周囲の流行状況、各地区医師会からの情報および個々の対象児のリスク等を勘案して、7回未満での終了を検討してよい。また、流行状況が予測できない或いは長期に及ぶシーズンにおいては、7回を超えた投与を否定するものではない。

2022CHIBA WEEKLY REPORT 千葉県結核・感染症週報 2022年第11週（令和4年3月14日～令和4年3月20日）



日本小児科学会千葉地方会 千葉県パリビズマブ適正使用ワーキンググループ
石和田稔彦 伊東宏明 大曾根義輝 岡田広 門倉圭佑 北澤克彦 佐藤雅彦 戸石悟司
西崎直人 東浩二 菱木はるか 福島裕之 星野直